

Q 研究保育をすることが、負担になってしまいがちなのですが...

A 「研究保育はよい保育をしなければならぬ」と考えてはいませんか。研究保育は「お手本」ではなく、参観者が自分の保育を振り返るための「教材」「機会」と捉えてみてはどうでしょう。

他の保育者の保育や保育観にふれることで

- ・自分の考えを整理することにつながる
- ・自分に取り入れたいことに気づく

「自分」を振り返ることができるような研修に

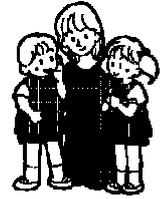
研究保育を行った保育者の指導のあり方だけが、協議の中心になっていませんか。

Q 研究テーマをどのように設定すればよいのでしょうか？

A まず、前年度の取組の成果と課題を全員で洗い出しましょう。さらに、園や子どもの実態、保護者や地域の願い等も踏まえて、テーマについて協議しましょう。

抽象的なテーマの場合、受け止め方がそれぞれ違ってきます。この違いをあいまいなままにして研究を進めていくと、記録をとったり協議したりするときにズレが生じてきます。探究する内容を具体的に共通理解していくことが重要です。

Q 研修時間がとれないのですが...



A 全員が参加する会だけでなく、グループ別研修を工夫したりしている園もあります。午睡時間を利用している園もありますが、職員の配置を十分にする必要があります。記録を回覧したり掲示板を活用したりして、共通理解を図ることもできます。事前に資料を配付して各自が確認しておくことも時間短縮のコツです。

Q 職員異動もあり、メンバーが入れ替わると研究が継続しないのですが...

A まず、昨年度の研究テーマや研究の成果と課題を説明しましょう。自園の取組をわかりやすく説明することを心がけましょう。研究保育や研修会などの機会に、具体的に伝えていきましょう。

研究する仲間として新メンバーを温かく受け入れていくことがポイントです。

例えば、「思いやりの心を育む」といった抽象的なテーマの場合、どのような切り口から探究するかを考えて、研究テーマを設定するとわかりやすくなります。サブタイトルで具体的な研究内容を示すこともできます。

(例) 「思いやりの心を育む 活動の工夫」